



かんばるっ子

「練習はじめ」。午後7時過ぎ、市民体育館武道場では高梁柔道スポーツ少年団の子どもたち20人余りが、互いの襟をつかみ、すり足で技を確認し合うなど息を弾ませています。

その中に、渡邊加奈子さん(高梁小学校6年)と妹・詩歩子さん(同1年)の姿があります。

加奈子さんは、8月に行われた第3回全国小学生学年別柔道大会(富山県射水市)に岡山県代表として出場したほどの技の持ち主。

柔道を始めたのは5歳の時。母親の美奈子さん(4)が、当時小学4年生だった兄の隆信さん(1)を市の柔道教室に参加させるため、加奈子さんを一緒に連れていったのがきっかけ。「兄ちゃんがいるんだったら、私も」と始めるようになりました。

小学3年生の時から同団



『柔道に打ち込む』

渡邊 加奈子さん・詩歩子さん姉妹 (落合町近似)

長・金澤茂さん(60)の勧めで、総社市の柔道教室へ木曜日以外毎日通い、そのうち3日間は、同スポーツ少年団と両方で稽古しています。「全国大会では、負けてしまったけど、いい思い出になりました。柔道は礼儀が身に付き、みんなと触れ合えます。これからももっと練習して、全国大会に少しでも多く出場できる選手になりたい」と話します。

また、「お姉ちゃんをまねたい」と昨年の春から柔道をはじめようになつた詩歩子さん。「投げられて泣いたこともあるけど楽しい」とにっこり。10月に行われた市民柔道大会では優勝するなどめきめき上達しています。

父親の清隆さん(40)は「加奈子は自分からもつとやる気を出して上を目指してもらいたい。詩歩子は素質はあると思うが精神力がこれからの課題」と厳しい。

金澤団長は「加奈子さんはうちのエース。まじめに稽古し、みんなのお手本になっています。詩歩子さんもこれからが楽しみ」と頑張る2人に期待しています。



フラダンス同好会(有漢町)

代表 片山 吉野さん

最近、人気の高まっているフラダンス。有漢町にも「フラダンス同好会」があります。

メンバーは、40代から60代の女性11人。毎週月曜日の午後7時30分から9時まで、有漢保健センターで活動しています。

指導にあたるのは、同好会のメンバーでもある土岐ミラさん(4)。フラダンスの経験のある土岐さんに習いたいと、平成14年6月から活動が始まりました。

初舞台は、活動開始からわずか2ヵ月後の地元の納涼祭。当時、踊れる曲はまだ1曲しかなく、衣装も慌てて購入したムーミーのようなもの。生バンドの演奏で踊る緊張の初舞台でしたが、アンコールもあり、「それで度胸がついたのかも」と笑顔で話す皆さん。

今ではレパートリーも10曲以上に増え、衣装も手づくり。地域のイベント

ハワイアの音色にのって



「こうした話や練習の様子からも、心からフラダンスを楽しんでいる皆さんの思いが伝わってきます。」

「仕事の都合などで、なかなか全員そろつての練習とはいきませんが、発表の場があることで目標もでき、張り合いが出てきます。これから他のフラダンスのグループができれば、グループ同士の交流もしてみたいですね」と代表の片山さん。

11月26日(日)に開催の「風ぐるまフェスタ2006 in うかん」にも出演します。(8ページに関連記事)

への出演や福祉施設への慰問などで年に5回ほど発表の機会があり、時には市外へ出向くこともあるとか。

米沢諏訪枝さん(67)は「腰を低く落としたり、左右に揺れるような動きは難しいですが、間違ってもスマイルでなんとか。みんな楽しんでやっています。健康維持とストレス発散になっていきますし、こうやってみんなで集まっておしゃべりして情報交換することも楽しみの一つです。」

ボストン美術館と 教育交流協定を締結!

学校法人 高梁学園 広報室



本学園は10月13日、アメリカ3大美術館の一つ「ボストン美術館」と教育協定を締結しました。文化財保存修復学研究所長の下山進教授が、光を当てることで色材料を特定する「非破壊分析」の手法を使って、江戸時代の絵師、安藤広重や葛飾北斎など貴重な作品を多数含む未公開の浮世絵版画約6500点を美術館スタッフと共同調査研究するほか、大学院生を同美術館に派遣し研修を行う予定です。研修は早ければ来年夏から実施予定で、同館が日本人をインターンシップ（就業体験）として受け入れるのは初めてのことです。

「吉備国際大学文化財総合研究センター」では、持ち込まれた文化財などを分析し、その破損・汚損状態を正確に把握した後に、西洋美術・東洋美術・文書・書籍それぞれの専門家が個々の状態に合わせて適切な処置を行っています。また、大学では最近特に注目されている、文化財を記録保存し後世に残していくデジタルアーカイブ技術についても教えています。現在、「社会学部」に所属している「文化財修復国際協力学科」ですが、さらなる飛躍を目指し、来春独自に「文化財学部」を立ち上げ、「文化財学部文化財修復国際協力学科」としてスタートします。「文化財学部」という学部は日本初！4年後には日本で初めての「文化財学士」という称号をもった卒業生たちが高梁から日本全国、また世界の美術館や博物館へと飛び立っていくでしょう。

■問い合わせ 高梁学園広報室（フリーダイヤル0120-25-9944/Eメールアドレス：koho@kiui.ac.jp）

編集後記

備中松山城や吹屋の町並みなどの文化遺産、備中神楽や渡り拍子などの伝統芸能、それに豊かな自然、いうまでもなく高梁には、誇れる観光資源がたくさんあります。

本紙でも紹介したように、今、こうした素材を生かした学習観光が行われています。吉備国際大学・白井洋輔教授によると、備中松

山城のある臥牛山は、ほとんどが国有林で伐採禁止となっているため、その樹木の種類は約240種にもおよび、何とそれは全ヨーロッパよりも多いそうです。私たちの住む高梁でも知らないことがいっぱいあるのでは。

郷土の歴史、文化、自然など詳しくひもといてみるのも面白いのではないだろうか。

(NK)

川柳漫画で 心に安らぎを



鈴木 繁實さん(69)
川上町地頭

漫画を描くことや川柳を作ることが生きがいです。昼間は家業の洋服店で働き、夜は作品作りの時間。作品の主なものは川柳に漫画を添える「川柳漫画」。川柳のもつ言葉の奥深さに漫画というユーモアを加え、誰でも気軽に楽しく見てもらいたいと思いがけで作っています。

漫画を描きはじめてのは、中学生時代。応募した懸賞漫画などに入選したときの喜びがきっかけです。その後は、

お話し 聞かせて

仕事の合間に趣味として漫画を描く程度でしたが、本腰をいれて漫画を描くようになったのは、平成3年から始まった「吉備漫画グランプリ」。漫画で町おこしをするならぜひ私も町の活性化に協力したいと思いグランプリに応募したり、旧川上町の広報紙へ川柳漫画を連載したこともあります。

また、数年前まで他県のミニコミ紙に一コマの風刺漫画を約3年間、連載したことが思い出に残っています。

漫画の面白さは、一本の線や、一つの点で人の表情ががらりと変わることに。また、いろいろな大会で受賞したり、新聞などに漫画や川柳が掲載されると、知り合いから電話や便りが届きます。共通の趣味を通じて広がった仲間と輪というのも私の大切な宝物です。

川柳漫画は見る人によって違ったところや、え方ができ、その人なりの世界を広げることが出来ます。川柳漫画を見た人が、笑顔になり、心に安らぎをもってもらえれば嬉しそうですね。



女医さんで血圧少し上りぎみ